科目名	成人看護学特論 I			分野・必選別・単位数	専門科目 (成人看護学)	選択必修	2単位
担当教員	◎教授 南川雅子 教授 林さとみ						
課程	博士後期	配当年次	1年	配当学期	前期	授業方法	講義
授業の概要	成人各期にある様々な健康レベルの人々の療養上の課題に対応している国内外の研究論文を諸側面から捉え、看護ケアの発展性、可能性について検討し、研究的知見を深める。療養上必要な専門知識と看護技法を看護学として体系化し、健康上の課題の解決とケアの展開能力を発展させることを目的とする。						
授業の到達目標	①成人各期にある人・家族の療養上の課題を1つ取り上げ、身体・心理・社会・霊的側面から分析できる。 ②成人各期にある人・家族の療養上の課題を解決するための看護介入技法の体系化について検討できる。						
授業計画	回数	担当者			行動目標		
	1	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	科目概説 本科目の概要を説明できる。			
	2	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	療養上の課題の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題について、身体・心理・社会・霊的・倫理的側面から分析する。			
	3	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	療養上の課題の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題について、身体・心理・社会・霊的・倫理的側面から分析する。			
	4	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	療養上の課題の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題について、身体・心理・社会・霊的・倫理的側面から分析する。			
	5	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	療養上の課題の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題について、身体・心理・社会・霊的・倫理的側面から分析する。			
	6	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	療養上の課題の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題について、身体・心理・社会・霊的・倫理的側面から分析する。			
	7	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	看護介入技法の体系化の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題を解決するための看護介入技法の体系化について検討する。			
	8	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	看護介入技法の体系化の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題を解決するための看護介入技法の体系化について検討する。			
	9	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	看護介入技法の体系化の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題を解決するための看護介入技法の体系化について検討する。			
	10	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	看護介入技法の体系化の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題を解決するための看護介入技法の体系化について検討する。			
	11	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	看護介入技法の体系化の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題を解決するための看護介入技法の体系化について検討する。			
	12	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	看護介入技法の体系化の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題を解決するための看護介入技法の体系化について検討する。			
	13	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	看護介入技法の体系化の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題を解決するための看護介入技法の体系化について検討する。			
	14	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	看護介入技法の体系化の探究 成人各期にある人・家族の療養上の課題を解決するための看護介入技法の体系化について検討する。			
15	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	講義の振り返りと習熟度確認				
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。 次回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	必要に応じて適宜提示する。						
参考書	必要に応じて適宜提示する。						
成績評価の方法および基準	プレゼンテーションに必要な資料作成30%、課題達成状況70%により評価する。						
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDPIが、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						